

令和元年度学力調査の結果及び改善内容

廿日市市立廿日市中学校

【令和元年度全国学力・学習状況調査】 3年生 4月実施(数値は平均正答率)

| | 国語 | 数学 | 英語 |
|-------|-------|-------|-----|
| 本校 | 78% | 63% | 58% |
| 広島県平均 | 74% | 60% | 56% |
| 全国平均 | 72.8% | 59.8% | 56% |

【分析と改善内容】

| | 各教科の結果及び県平均との比較の状況 | 結果から見える「重点課題」 | 「重点課題」に対する指導方法の改善内容 |
|----|---|---|--|
| 国語 | <p>○全ての問題で県平均の正答率を上回ることができた。</p> <p>○「書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する」問題の正答率が県平均 87.6%に対して、本校 88.2%と差が0.6%しかない。</p> | <p>○無回答が少ない(10問中9問は1%以下)ことが結果につながっていると考えられる。</p> <p>○文法事項(特に左記の問題では副詞(呼応の副詞))の理解が十分にできていなかったり、前後の文章との文脈のつながりを意識して読んだりする力に課題がある。</p> | <p>○授業では書く活動に重点を置き、日ごろから書くことに慣れさせることで抵抗感をなくしたり、定期テストでも書く問題を増やしたりする。</p> <p>○文法事項の定着を図るため、定期的に文法事項を確認する。文章の穴抜き問題等類似問題に取り組む。</p> |
| 数学 | <p>○「グラフ上の点 P のy座標と点 Q のy座標の差を、事象に即して解釈することができる」問題の正答率が県平均37.5%に対して、本校30.7%で6.8ポイント低かった。</p> <p>○「簡単な場合について、確率を求めることができる」問題の正答率が県平均 72.1%に対して、本校65.4%で6.7ポイント低かった。</p> | <p>○グラフ上の点のx座標や y 座標が何を表しているのか事象に即して解釈することに課題がある。</p> <p>○2枚の硬貨を同時に投げた時の硬貨の表と裏の出方の起こりうるすべての場合が3通りであると間違っ捉えている。</p> | <p>○問題解決において用いるグラフを事象に即して捉え直す活動を取り入れる。その際、ペアやグループを利用して、自分の考えを書かせたり、伝えあったりする活動をしくむ。</p> <p>○確率を求めることができるようにするために、樹形図や表などを利用して、起こりうるすべての場合の数とその事柄が起こりうる場合の数を正しく数え上げられるように指導する。</p> |
| 英語 | <p>○「聞くこと」は 1.1%、「読むこと」は1.7%、「書くこと」は4.9%、県平均を上回っている。</p> <p>○「書くこと」に関して、「与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く」は平均正答率が県平均を上回っているが、「学校を表す2つのピクトグラム案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く」は1.4%県平均を下回っている。</p> | <p>○解答類型から、与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことはできているが、コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがあることが課題である。</p> | <p>○調べたことについて説明したり報告したり、絵や写真の様子を表現したりするような言語活動を取り入れる。</p> <p>○書いた英文をペアやグループで読み合うなどして、文法的な誤りに気付かせるなどの場面を設定する。</p> |

